



レンジャーに なりたい

令和2年度入省予定
環境省総合職自然系 内定者の声

はじめに

こんにちは！

この度は、令和元年度版『内定者の声』をご覧頂きありがとうございます。

本冊子は、環境省自然系職員を志望する方々を主な対象として、令和2年度入省予定の総合職自然系内定者の内定体験談についてまとめたものです。

以降のページでは、採用試験の基礎情報から始まり、どのような人が内定したか、内定者がどのような考えや行動によって内定に至ったか、等について記載されています。これらの情報は、内定者ひとりひとりが率直に記したものであり、国家公務員や環境省、レンジャーを志望する方々や、環境省に興味がある方々などへの、試験対策や進路選択の一助となるかと思えます。また、本冊子は環境省のHPでも公開されており、比較的アクセスしやすい情報源です。環境省にOB・OGがいない方、説明会等に中々参加出来ない方など、採用等に関する情報を手に入れにくい方々にも、公平に有益な情報をご提供出来ればと思えます。

本冊子をご覧頂きました全ての方々が、この『内定者の声』を通して、環境省へのご理解やご興味を深めて頂けたならば幸いです。ぜひこの『内定者の声』を、情報収集の他、試験の息抜きや励み等様々にご活用下さい。本冊子が、皆様の今後のご活躍の礎となれば光栄です。

(令和元年度 環境省総合職自然系 内定者一同)

※その他情報について

各職種の詳しい業務内容やお知らせ、試験などに関する最新の情報については、環境省および人事院のホームページをご覧いただくか、直接お問い合わせください。

『環境省ホームページ <http://www.env.go.jp/> 』

『環境省総合職自然系ページ http://www.env.go.jp/guide/saiyo/cat_g3/index.html 』

『環境省レンジャーの仕事

http://www.env.go.jp/guide/saiyo/info/pamph/ranger_web.pdf 』

『人事院国家公務員試験採用情報 NAVI <https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html> 』

目次

基礎情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

内定者の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

内定者からの情報

Aさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

Bさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

Cさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

Dさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

Eさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

Fさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

Gさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

Hさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21

参考書・資料一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

環境省・内定者のイメージ・・・・・・・・・・・・ 巻末

基礎情報

平成31年度 国家公務員総合職試験および内定までの流れ

令和2年度の日程は公務員試験採用情報 NAVI をご確認ください。

(<https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.html>)

日程	内容	備考
2/1	受験案内の HP 掲載開始日	
3/29~4/8	申込受付期間 (インターネット)	
4/28	第一次試験日 午前：専門試験 (多肢選択式) 午後：基礎能力試験 (多肢選択式)	服装自由 翌日 HP に解答掲載
5/10	第一次試験合格者発表日	HP 掲載、合格通知書 (二次試験の日時・会場の通知)
5/26	第二次試験日 (筆記試験) 午前：専門試験 (記述式) 午後：政策論文※ (大卒のみ)	服装自由 人物試験の日時・会場の通知 (大卒：手渡し 院卒：ハガキ)
※政策論文試験では課題文と資料が与えられ、小論文形式で解答します。過去問請求が可能です。		
5/28~6/14	第二次試験 (大卒のみ) 人物試験※	日時変更は原則不可 <u>提出物 (外部英語試験の証明書類、卒業証明書など)</u> に注意！ スーツ (クールビズ推奨)
※人事院が実施する面接官 3 名対受験生 1 名の面接で、時間は一人 20 分程度です。 基本的に、当日提出する面接カードに沿った内容を質問されます。		
6/6~14	第二次試験 (院卒のみ) 政策課題討議試験※、人物試験	同上
※政策論文試験と同じく課題と資料が与えられ、内容について 5~6 人 1 組で意見発表や討議を行い、試験官 3 名がその様子进行评估します。過去問は請求できません。		
6/25	最終合格者発表	HP 掲載、合格通知書
6/26~28	官庁訪問 第 1 クール	スーツ (クールビズ推奨)
7/1~3	官庁訪問 第 2 クール	
7/9	内々定解禁	

* 環境省のお仕事について *

環境省の職員は、事務系、理工系、自然系の3つに分かれています。自然系職員（通称レンジャー）の業務内容等については、環境省総合職自然系ページ上に掲載されている下記パンフレットをご覧ください。

(環境省レンジャーの仕事 http://www.env.go.jp/guide/saiyo/info/pamph/ranger_web.pdf)

* 試験区分 *

環境省総合職自然系は、森林・自然環境区分もしくは化学・生物・薬学区分から採用されます。令和2年度入省予定者8名のうち、森林・自然環境区分が7名、化学・生物・薬学区分は1名でした。総合職では、試験区分による業務内容の違いはありません。

試験内容、配点、出題分野等の詳細や最新情報については国家公務員試験採用情報NAVIの受験案内をご参照ください。

(国家公務員採用試験受験案内 <http://www.jinji-shiken.go.jp/html/AnkJknAnnList.html>)

* 官庁訪問 *

◆ 官庁訪問とは？

官庁訪問とは、各省庁に採用してもらうためのいわゆる『採用面接』です。人物試験と同様に、面接カードを提出したうえで面接を行います。人事院の実施する総合職試験に最終合格すると、3年間有効の合格者名簿に名前が載ることになりますが、合格＝採用ではありません。官庁訪問こそ志望省庁から採用されるための最後にして最大の難関とも言えます。総合職の官庁訪問は、訪問開始以降、第1クール～第5クールまでの日程（クール制）で行われ、その後、内々定解禁という流れになります。原則として、1クールにつき1つの省庁への訪問は1回で、通過すれば次のクールの官庁訪問も行うことができます。平成31年度の官庁訪問の詳細については、下記を参照して下さい。

(総合職試験（院卒・大卒） 採用までの流れ（平成31年度）

https://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo/sougou/saiyo_sougou02.html)

官庁訪問では複数の志望省庁を訪問することになると思います。通常は志望度の高い省庁から順に訪問しますが、環境省自然系では2日目以降に訪問したからといって採用されないということはありません。官庁訪問の日程やルール等については、毎年人事院より発表されますが、次のクールの訪問日が省庁側から指定される場合と、こちらが選べる場合があるなど、各省庁によって具体的な進め方が異なります。可能であれば志望する省庁の

OB・OG等に尋ねて、どの省庁を何日目に訪問するか事前に計画しておきましょう。また、遠方の方はかなり長期戦(約2週間)になるため、ホテルや飛行機の手配などを早めに行うことをおすすめします。

◆ 環境省の官庁訪問について

平成31年度の環境省総合職自然系の官庁訪問は個人面接のみ、第1クールと第2クールの計2日間実施されました。第1クールは初日のみ先着順、2日目以降は事前予約が必要でした。定員は一日に20名程度です。面接順は採用の可否に全く影響しませんのでご安心ください。第2クールは、第1クールの結果通知メールで指定された日時に訪問しました。

上記の内容は全て平成31年度の情報です。最新の情報や詳細については人事院や環境省の採用ホームページ、あるいは必要に応じて採用担当者に確認してください。

内定者の概要

8人の内定者の基本情報及び試験情報についてまとめてあります。
 次ページからのインデックスとしてご利用ください。

卒業区分	Aさん 院卒	Bさん 院卒	Cさん 院卒	Dさん 院卒	Eさん 院卒	Fさん 院卒	Gさん 院卒	Hさん 大卒
試験区分	森林・自然環境 森林環境科学 森林資源科学 造園計画(自然公園) 造園計画(自然公園)	森林・自然環境 森林環境科学 造園計画(自然公園) 造園計画(都市公園)	森林・自然環境 森林環境科学 森林資源科学 造園計画(自然公園) 造園計画(都市公園)	森林・自然環境 森林環境科学 造園計画(自然公園) 造園計画(都市公園)	森林・自然環境 砂防工学 造園計画(自然公園)	化学・薬学 食品学・生化学 分子生物学・発生生物学 生理学・細胞生物学 形態学・放射線生物学 遺伝学・進化学 生態学・動物行動学 系統分類学	森林・自然環境 森林環境科学 森林資源科学 森林生物生産科学	森林・自然環境 砂防学基礎 砂防光学 流域管理
一次試験選択科目								
二次専門選択科目	森林科学に関する基礎 海洋生態学 浮遊生物学 トレイルランニング ダイビング	自然環境・公園緑地に 関する基礎 法学(学部) 生態学(院) 山歩き 読書 写真	森林科学に関する基礎 保全科学 旅行 散歩 バドミントン	自然環境・公園緑地に 関する基礎 保全生態学 登山 写真 ドライブ 散歩	国土保全に関する基礎 土木 環境工学 自転車ツーリング 登山 中国茶 雑貨屋さん巡り	国土保全に関する基礎 食品学・生理学 獣医学 動物飼育・読書・散歩 旅行・神社巡り・採集 生物観察・博物館(動物園 ・水族館含む)展示の閲覧 お茶収集・堪能・美術鑑賞	国土保全に関する基礎 造林学 森林土壌・植物生理生態 登山	国土保全に関する基礎 土木工学・土質力学 草野球
大学での専攻								
趣味								

内定者からの情報

志望動機や試験対策・官庁訪問等の体験について内定者が書きました。

Aさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】 修士2年・男・24歳

【専攻科目】 海洋生態学・浮遊生物学

【試験区分】 森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】 森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】 森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】 霞が関 OPEN ゼミ・少人数相談会・JOB トーク

【併願先】 環境コンサルタント会社・国家一般職

(2) 志望動機

幼少期や学生時代に趣味や研究で日本の自然に触れることが多かったです。のちにそうした自然が日本の国立公園であることを知り、レンジャーの仕事を知りました。環境省の説明会や講演に参加していくうちに、先輩レンジャーのこれまでの経験や、教訓、ビジョンを知り、自分もレンジャーとして現場と机上で奔走したいと感じるようになりました。また、現場と本省を経験し、政策立案などにも携わりたいという気持ちから総合職を志望しました。

(3) 体験記

● 勉強方法

一次試験対策に全力を注ぎ、二次試験ではそのアウトプットの練習という流れで対策しました。基本的には過去問、白書、必携を何周もするという方法をとりました。

【1次：基礎能力試験】

基礎科目があまり安定しなかったため、文章理解や数的処理・判断推理をセットにして毎日、慣れるように演習しました。試験時間に余裕のある専門科目に比べ、基礎科目は時間との勝負だったので、捨て問と得点源の判断や、時間配分等、実践的な対策を多く行いました。

【1次：専門多肢選択式試験 2次：専門記述式試験】

森林・自然環境は触れたことがなく、独学という状況でスタートしました。始めは、分からないなりに、本番と同じ時間で全選択肢を丁寧に読みながら解いてみました（7点しか取れず）。それから、白書、必携、ホームページなどを読みながら正しい答え、解説を書き込んでいきました。似た問いが分かる様になり始めると、徐々に点が伸びていきました。過去問と同時に、白書と必携を1章ずつ毎日読んでいたのも力になったと感じています。2次試験の記述対策は1次試験後から始め、過去問の演習と同時に、白書の旬なトピックについて、背景、現状、課題、今後についてまとめ、それを記述できるように練習しました。

【2次：人物試験】

面接カードに忠実に質問されました。予想質問リストとその答えを作り、自分の答えたい内容について質問してもらえよう、キーワードを面接カードに並べるよう意識しました。

【2次：政策課題討議試験】

大学の講座に3回ほど参加しました。客観的な評価を聞くことに加え、時間内でレジュメを作成する練習をしました。時事問題対策で使用した、速攻の時事を読みなおし、近年の話題の政策やトピックについて、少しでも討議に取り入れられるよう心がけました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

試験対策などは、これ以上はやれなかったと思えるまでやることを心がけ、自信をもてるようにしました。試験対策の合間に、JOBトークや説明会などに参加したことが、試験勉強のモチベーションに一番繋がっていたと感じています。

●官庁訪問

第一クールの初日に訪問しました。いずれの面接も、面接カードの内容を中心に質問されました。想定外の質問もありましたが、急いで答えるよりは、嘘や背伸びをせず、率直な気持ちを伝えていけば問題ないと思います。自分からの質問の時間もあり、対話を楽しむことが大切だと感じました。

●アドバイス・メッセージ

スタートが遅かった自分にとっては、試験対策は正直辛い時間でした。民間の就職活動などを早めに着手し、余裕をもって公務員試験に臨むのが理想だと思います。素の自分を出すためにも、早い対策で余裕を持った準備をしておくが良いと思います。私はあまりできませんでしたが、フィールドに出て自分の肌で自然を感じるのも大切な時間だと思います。

Bさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 修士課程

【学年・性別・年齢】 修士課程 2年・女・24歳

【専攻科目】 法学(学部)、生態学(院)

【試験区分】 森林・自然環境 (院卒)

【一次専門選択科目】 森林環境科学、造園計画 (自然公園)、造園計画 (都市公園)

【二次専門選択科目】 自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】 霞が関 OPEN ゼミ、公務員研究セミナー等・7回

【併願先】 シンクタンク、一般職、地方自治体(環境行政を軸に)

(2) 志望動機

動物が好きだったことから希少種の保全に関心を持ち、制度作りに携わりたいと考えたのが、自然環境行政に関する仕事につきたいと思うようになったきっかけでした。

その後、将来の自然環境のためには、保全のみを考えるのでは不十分であり、さまざまな現場、人、社会問題などと向き合っていく必要性を感じました。そこで、保全と利用の両立を行い、現場と本省の両方で自然環境行政を行う、環境省自然系を志望しました。

特に関心のある仕事内容は、希少種保全、外来生物対策、生物多様性の主流化、国立公園行政、などです。

(3) 体験記

● 勉強方法

【1次：基礎能力試験】

数的処理と判断推理は『新スーパー過去問ゼミ』の重要問題を繰り返し解き、大学のセミナーに参加して対策を行いました。時事に関しては『速攻の時事』に何度か目を通しました。また、過去問は時間を計りながら5年分解き、時間配分を調整しました。

【1次：専門多肢選択式試験 & 2次：専門記述式試験】

まず、過去問のテーマを確認し、それらを中心に白書や必携を読みこみ、まとめました。その後、過去問を5年分解き、わからなかった部分や関連する情報について、調べてノートにまとめていきました。また、最近の施策等についても『国立公園』やホームページ

で確認しておきました。

二次試験は、一次試験時から二次試験を意識してノートにまとめておき、一次試験終了後から過去問を解き始めました。

【2次：人物試験】

民間就活も行い、エントリーシート・面接ともに、その都度反省を行ってノートにまとめ、次に生かすようにしました。面接カードは、文章については、キャリアセンターや友人などに見てもらい、伝わりにくかった部分に修正を加えました。また、緊張しすぎずに自信をもって話せるよう、模擬面接も大学のキャリアセンターで二回行いました。

【2次：政策課題討議試験】

大学のセミナーで3回程度練習を行い、フィードバックをいただいて、流れの確認やレジュメの作成方法を練習しました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

環境省を志望するようになったきっかけ、入ったら何がしたいのか、今までお話ししたレンジャーの方の言葉のどういったところで仕事に魅力を感じたのか、なぜ民間・地方自治体・自然保護団体ではなく環境省で働きたいのか、などの考えを深めるようにしました。

●官庁訪問

大学四年次から説明会への参加や OBOG 訪問を行っていました。それにより、日々の仕事だけではなく、人柄や雰囲気、仕事の上での考え方などを知ることができ、志望動機を深められました。

訪問カードは、二次記述試験後に作成し始め、他の国家公務員志望者などに見てもらい、修正しました。特に、志望動機については、全体的な考えから、具体的にやりたいことについても考えを深めるようにしました。

●アドバイス、メッセージ

就活において、相手に自分を知ってもらうためには、自分で考えや想いを整理し、それを相手に伝えることが重要だと思います。そこで、うまく伝えるには、時には、別の視点からの意見に助けられることもあります。私自身、この就活において多くの方々に支えられてきました。

みなさまが自分と向き合って考え、時には人に支えられながら、自分に合った進路を見つけられることをお祈りしています。

Cさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士課程2年・女・25歳

【専攻科目】保全科学

【試験区分】森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】森林科学に関する基礎

【参加した説明会・回数】4回（学内1回、本省開催の説明会2回、合同説明会1回）

【併願先】地方自治体（造園職）、環境/観光コンサル

(2) 志望動機

今の世代に次の世代の資源を奪う権利はない、という世代間倫理の考え方を高校生の頃に知ってから、自分も将来世代に自然資源を残すために何かしたいと漠然と考えていました。そしてちょうどその頃、新聞で人と自然、人と人を繋ぐことで自然保全を実現しようとする環境省レンジャーの記事を読み、これだ！と思いました。大学に入ってから視野を広げようと環境省以外の道も考えました。しかし、研究でフィールドに出たり、保全関連の協議等を見学する中で、将来を見据えて大局的に自然の保全・利用策を打ち出し、調整する役割を担う環境省の仕事の重要性を感じると共に、改めて自分もやってみたいと思いレンジャーを志望するに至りました。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

3年分過去問を解き、苦手な数的処理だけ別の参考書も使いました。教養に時間を取られなくなかったので得意分野で点を稼いで苦手分野は基本が出来ればOKと割り切りました。

【1次：専門多肢選択式試験】

学部時代に林学系の授業を受けましたが、大分忘れていたので森林・林業白書をまず1周読みました。そのあと過去問を4年分解き、復習中心に勉強しました。復習時は白書や環境省・林野庁のHP等を参照し、正解かどうかに関わらず知識不足で明確に切れなかった選択

肢はすべて根拠となる情報をノートにまとめていました。

【2次：専門記述式試験】

過去問は4年分解きました。1次のノートまとめがそのまま2次対策になったと思います。
+αで出題範囲の最新トピックについて白書を確認していききました。

【2次：人物試験】

面接カードに書いたことに沿って深堀される形式でした。予想外の質問はほとんどなかった
ので、官庁訪問や民間での面接と比べて対策はしやすいです。自分は緊張するタイプなので、
不安をなくすためカードに沿った想定問答集を作って面接のシミュレーションをしてい
ました。また、面接官の質問の意図をしっかりと掴み、過不足なく返答出来るように民間や模
擬面接などで練習しておくといいと思います。慣れは大事です！

【2次：政策課題討議試験】

ネットで形式とレジュメの作り方を調べたぐらいで、時間を割いて準備はしませんでした。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

基本的には普段通り、研究して過ごしました。その中で「なぜ環境省で自然に関わる仕事
がしたいのか」「自分が将来実現したいことは何なのか」などこれまで何となく考えていた
ことの具体的な中身について自己分析、白書や説明会資料などの情報の整理をしながら考え
て喋れるようにしていました。週末は友人と会ったり体を動かしたり、息抜きもしました。

●官庁訪問

環境省には第1クールの初日に訪問しました。初日は大体来た順に面接が終わっていたの
で、早く帰って疲れを癒したい人は早めの時間に来ておくもいいかもしれません。面接では
訪問カードに書いたことをきっかけに、面接官の方も自分も話を広げていくことが多かった
です。また、訪問カードの裏面には半分弱ほどアピールのきっかけになりそうなエピソード
を書きました。面接では想定外で答えにくい質問もあるかもしれませんが、何を知ろうとし
ているのか面接官の意図を掴み、なるべく自然体で会話を楽しめれば大丈夫です。

●アドバイス、メッセージ

色んな経験をして、自分の可能性をめいっぱい考えて進路を決めてほしいです。納得でき
るまで動き、考えた経験が面接の際に相手に熱意という形で伝わり、その僅かな差が結果を
左右するのだと思います。ちょっとした失敗ならどうにでもなります。頑張ってください！！

Dさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士2年・男性・23歳

【専攻科目】保全生態学

【試験区分】森林・自然環境（院卒試験）

【一次専門選択科目】森林環境科学、造園計画（自然公園）、造園計画（都市公園）

【二次専門選択科目】自然環境・公園緑地に関する基礎

【参加した説明会・回数】サマートライアル、個別相談会など・3回

【併願先】建設コンサルタント（環境部）、シンクタンク

(2) 志望動機

自然環境保全に興味を持ったのは小学生の頃です。バッタを捕まえていた近所の草原が宅地化されたこと、そんな些細な出来事が保全を意識し、現在所属している研究室を目指したひとつのきっかけでした。それまでは、様々な生き物を見たい、知りたい、食べたいということだけを考えて生きていたのですが、そんな平穏すらままならない世の中になってしまうような不安が湧いてくるようになりました。同時に、なんとしても現在、自然から享受している豊かさは将来世代に引き継ぎたいと思うようになりました。また、学生生活を送る中で保全の現場の厳しさ、対応の限界を感じるようになりました。環境省の総合職レンジャーを志望したのは行政官として現場の課題を知った上で、現実的かつ着実に自然環境を取り巻く課題の解決に貢献する政策を立案したいと考えたからです。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

数的処理・判断推理の出題数が多いので時間を割きました。解き方も何もわからなかったので、簡単な例題の載っている解説書を斜め読みしてから過去問を解きました。勉強開始が遅かったこともあり、知識問題などのコスパの悪い問題はほとんど放置しました。数的処理・判断推理は勉強に時間がかかるので受験される皆さんはこの2科目だけは早めに対策することをおすすめします。この2科目を十分対策すれば基準点に達すると思います。

【1次：専門多肢選択式試験】

基礎能力より配点が高いことから専門分野の対策に多く時間を割きました。誤答の選択肢のどの部分が誤りなのかを調べ正答を把握することで、出題の癖も把握でき、効率的に勉強できたと思います。主に森林・林業白書、環境白書、関連サイト等を利用しました。

【2次：専門記述式試験】

1次試験に合格してから対策を始めました。過去問に目を通し出題傾向を掴んでから、生物多様性国家戦略、環境白書、第五次環境基本計画を環境省の取り組みの具体例を把握することを意識して読み込みました。

【2次：人物試験】

面接カードを書いて何回か大学のキャリアセンターで添削してもらいました。その後、2回ほど面接練習をしました。民間の面接練習・本番を合わせると7回は面接をやっているといます。面接は実践あるのみだと思います。

【2次：政策課題討議試験】

特に対策はしませんでした。「公務員講座に払う金があったら旅行にでも行ってこい」というすばらしいタイトルのHPを当日の朝、電車の中で眺めていました。とても分かりやすいので参考にしてみると良いと思います。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

内定までの就活期間中は自身の研究が最も忙しい時期でもあり、フィールドワークや飼育実験など毎日、データの収集に追われていました。また、民間の就活もしていたので、研究、環境省、民間の3つを両立させるために気持ちの切り替えを意識していました。私は就活に失敗しても自然環境保全はできるから大丈夫、失敗したら何しようかなとポジティブに考えていたので就活の結果に一喜一憂せず気持ちの切り替えがしやすかった気がします。

●官庁訪問

ここまで来ることができたのが奇跡。ありのままの自分で行こう。それだけを考えていました。面接官の先輩レンジャーの方々は穏やかで話しやすい雰囲気を作ってくださいるので、落ち着いて自分の言葉で話すことができました。

●アドバイス、メッセージ

就職先は自分の掲げた目的に到達するためのひとつの手段でしかないと思います。もちろん環境省が第一志望でしたが、不採用になっても自然環境保全の道が途絶えることはありません。就職できなくても草の根的な保全活動でも何でもやるつもりでいました。目的さえ明確にしまえば手段はたくさんあります。そう考えると気が楽になりますよ。なんだか偉そうな文章になっていますが、皆さんが納得のいく形で就活を終えられることを祈っています。マイペースにゆったりと頑張ってください。

E さん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修了見込み

【学年・性別・年齢】修士2年・男性・24歳

【専攻科目】土木・環境工学

【試験区分】森林・自然環境（大卒）

【一次専門選択科目】砂防学基礎、砂防工学、造園計画（自然公園）

【二次専門選択科目】国土保全に関する基礎

【参加した説明会・回数】Job トーク、公務研究セミナー・4回ほど

【併願先】民間企業（建設・環境コンサル）

(2) 志望動機

生態系保全により地域の方々も恩恵を受ける社会を実現したく、総合職自然系を志望しました。私は現時点で、①人の役に立つこと、②生態系保全に貢献すること、の2点を人生の目標にしています。1点目の理由は、自分を犠牲にして人に尽くしていた祖父母や両親のような人になりたいと思っているからで、2点目の理由は日本全国を自転車で旅し、日本の美しい生態系とそれに基づく食や文化の多様さに感動したからです。その思いから参加した佐渡島での自然再生実習を通し、トキの生息地保全に加え、認証の仕組み作り等を通じて地域の方々を支援するレンジャーの存在を知り、上記の目標にぴったりだと思い、レンジャーを目指しました。

(3) 体験記

●スケジュール

私は修士課程を修了した他の内定者と異なり、修士1年時に国家公務員試験の大卒区分に合格し、その資格（3年間有効）を使って修士2年時に官庁訪問を行いました。就活時に試験勉強をする必要がなかったため、民間企業についても十分情報収集をしたうえで余裕をもって進路について考えることができました。

●勉強方法

※2年半前のことなので記憶が曖昧です。ぜひ他の内定者の勉強方法を参考にしてください。

【1次：基礎能力試験】

国語と英語には自信があったので『国家総合職過去問500』で判断推理と数的処理の対策をしました。勉強時間に対してコスパが悪いと考えあまり重視しませんでした。

【1次：専門多肢選択式試験・2次：専門記述式試験】

「過去問解く→答え合わせ→ネットや森林・林業白書、教科書で問題やその周辺分野に関する知識をノートにまとめて暗記」という作業を繰り返しました。選択科目は私の専門に近い砂防工学系3問と、自分が勉強して楽しい自然公園1問の計4問のうち、当日試験問題を解いてみて出来がよさそうな3問を選択しました。

【2次：人物試験】

研究室の先輩やOBさんに面接カードの添削や面接練習をしてもらいました。各項目の

文字数が少なく具体的なエピソードを盛り込むのは難しいので、比較的抽象的に面接カードは書いておき、面接官に掘り下げられたときに答えられるようにしておくと思いいます。

【2次：政策課題討議試験／政策論文】

インターネットで政策論文のコツを検索し、頭に入れておきました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

自然系の就活では、説明会だけではなく、知り合いに紹介して頂いた現役レンジャーさん計6名にOB訪問をしました。具体的な業務内容ややりがいを伺えただけではなく、現役レンジャーさんの生態系保全に対する考え方を知ることができ、自分自身の志望動機を深める上で大変勉強になりました。職員の方々は熱意が強く人柄も私にとって大変魅力的で、会えば会うほどレンジャーになりたいという思いが強くなっていきました。

また自然系だけに絞るのではなく、環境省理工系や他省庁、環境・建設系の民間企業を対象に幅広く就活をしました。ES執筆や面接に慣れることもメリットの1つでしたが、私の場合民間企業でも様々なアプローチから環境保全に携われることを学べたことも有意義でした。想像以上に自分の軸に合った企業があり、一時は内々定を頂いた企業に進むことも考えました。正直レンジャーになれなかったとしても、前向きに他の道を歩めたと思います。

●官庁訪問

面接カード

表面に自己PRできる部分が少ないなと感じたので、裏面の自由記述欄に「自然保護官になる上で役立つ私の強み」を3つ書いたり、最も力を入れたことに関する写真を載せたりしました。裏側は書く必要ないという先輩もいましたが、写真やデザインを駆使してわかりやすく自己PRをする絶好の機会だと思います。自分で仕上げた後研究室の同期に見てもらい、論理の飛躍や理解しにくい箇所はないか等、確認してもらいました。

面接準備

志望動機・最も力を入れたこと・携わりたい業務についてすらすら言えるように何度も音読しました。また、面接で掘り下げられうる想定問答を作成し、内容を頭に入れておきました。

面接本番

面接官の質問を注意深く聞き、それに対応する答えを確実に答える、これに尽きると思います。想定外の質問が来た際は、「えー、そうですねー」と10～15秒くらい考えて頭を整理してから答えました。緊張を和らげるため、面接内外で堂々と笑顔で振る舞うよう心掛けました。

面接の内容に関しては、私の場合志望動機と最も力を入れたことを掘り下げる質問がほとんどでした。上手く答えられなかった質問に関しては面接後すぐにメモしておき、次の面接に備えて答えをもう1度練り直しました。

●アドバイス、メッセージ

これまでの人生、現在の大学、学部は気にせずに、ぜひ自分が興味を持ったことに積極的に挑戦して、そこで出会った縁を大切にしてください。私は大学の講義や研究活動、自転車旅、留学、環境系のイベント等興味を持ったことに参加して、そこで得た経験や出会った方々が職業選択に大きく影響しました。結果として、自分の学科（土木系）の先輩方が誰一人として選ばなかったレンジャーという道に進むことになりました。文学部からレンジャーになった先輩もいます。生態系保全に興味を持っている方は、現在や過去の自分にとらわれず、まずは説明会やOB訪問に申し込んでみてください。お会いするのを楽しみにしております！

Fさん

(1)プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学卒業見込み

【学年・性別・年齢】学部6年・男・25歳

【専攻科目】獣医学

【試験区分】化学・生物・薬学（院卒）

【一次専門選択科目】食品学、生化学・分子生物学、発生生物学・生理学、細胞生物学・形態学・放射線生物学、遺伝学・進化学、生態学・動物行動学・系統分類学

【二次専門選択科目】食品学、生理学

【参加した説明会・回数】霞ヶ関 open ゼミ

【併願先】地方公務員（獣医職）

【環境省で関心のある仕事】全部

(2)志望動機

幼少期から生き物の飼育や観察が好きで、大学入学以前は生き物に関わる仕事がしたいと考えていました。大学入学後、野生動物獣医の道を考えましたが、自分のやりたいことは生態系そのものの保全であること、その為には保全に対する社会の合意が必要であると感じたことなどから、レンジャーを志望するに至りました。

(3)体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

高得点を取ることよりも、合格点を確保することに全力を注ぎました。得意分野で落とさないことで得点を確保すること、苦手分野では「得点出来たら儲け」くらいに考え、プレッシャーを最低限にすること、が重要かと思います。時事はある程度対策しておけば、完全に覚えていなくても類推で解ける問題もあるので、個人的には対策をお勧めします。

【1次：専門多肢選択式試験】

まず1～2年分過去問を解きながら、各分野の教科書を一通り押さえ、後に残りの過去問を解きながら、知識の穴を埋めつつ出そうなところを補足で押さえていきました。必須問題に関しては、他でカバーできるなら、自分の得意分野以外勘で解く、という選択もありだと思います。範囲が広いですが、過去問をやり込むとだんだん傾向が分かってくる上、不確定要素が少なくある程度安定して得点できる試験であるため、焦らずじっくりやることが肝要かと思われます。教材集めは早めにやっておきましょう。

【2次：専門記述式試験】

該当範囲の教科書がつつり読み込みました。教科書には人によって合う・合わないがあるため、自分に合う教材を見つけ、それを徹底的に読み込み、各トピックスを人に説明できるように固めておけば大丈夫かと思います。

【2次：人物試験】

大学の就職支援課や友人に面接の練習をさせて頂きました。面接での落ち着いた礼儀正しい振る舞い方、自分の話し方のクセなど、実際にやってみないと把握や矯正が難しいものがあるので、練習→改善点を改める→練習・・・と複数回実際に練習するのが良いと思います。面接カードも出来れば大人に添削してもらいましょう。

【2次：政策討論】

軽く友人同士で練習しました。レジユメの書き方だけは、一度実際に書くなりして慣れていた方が良いと思います。ペーパー試験とも人物試験とも異なる試験形態に身構えてしまいますが、レジユメの書き方や試験の概要さえわかっていたら大丈夫かと思います。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

受かったらよし、駄目であればそれは天が行くなと言っている。どちらにせよ決定した時点でそれは自分にとって最良の進路である。と割り切ることに努めました。とにかく精神的にも進路的にも自分を追い詰めない事、余裕を持つことが大事かと思います。就活は縁や運も多分に関わります。人事を尽くして天命を待ちましょう。

●官庁訪問

面接カードは大学の就職支援課で添削して頂きました。人事院の面接と異なり、何度も面接を行う分突っ込まれる視点も多角化するので、面接カードの作り込みは必須です。面接対策としては人物試験と同様で、それに+αで環境白書の軽い読み込みと、志望動機など確実に聞かれる部分の更なる深掘りを行いました。白書に関しては、政策的知識を詰め込む等の使い方はせず、自分のやりたいことを更に具体化させる手助けとしました。当日は前後の方とお話してリラックスする傍ら、置いてあるパンフレットに軽く目を通しました。パンフレットは重要事項が良くまとまっており、面接において知識面で咄嗟の瞬間に役立つので、目を通して良かった方もあると思います。リラックスしよう、と努めてもどうせ緊張します。そんな自分を受け入れて前向きになりましょう。

●アドバイス、メッセージ

人間、力を発揮する上で最も大切なのは心だと思います。ビジョンがあってもやる気や情熱が伴っていなければ努力できません（少なくとも個人的には）。自分は何がやりたいのか。勉強等の対策は勿論不可欠ですが、何より自分を偽らず、素直な思いでぶつかることが肝要だと思います。

Gさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】大学院修士修了

【学年・性別・年齢】既卒2年目・男性・27歳

【専攻科目】造林学（森林土壌、植物生理生態）

【試験区分】森林・自然環境（院卒）

【一次専門選択科目】森林環境科学、森林資源科学、森林生物生産科学

【二次専門選択科目】国土保全に関する基礎

【参加した説明会・回数】学部生時代に大学で開催されていたもの・1回

【併願先】林野庁、都道府県庁（林業職）

(2) 志望動機

幼少期から自然に触れ親しみを感じており、大学で森林科学を学んで自身の知識や経験を活かして自然環境に関わる仕事に就きたいと漠然と感じていました。そうしたなかで、昨年度非常勤職員として働いていた愛知県の環境教育施設にて、森林管理、生物調査、環境教育等々の様々な業務を経験し、環境保全と利活用の調和という大きな課題に対しては、地域レベルで現場に携わることはもちろん重要であるが、国家レベルでの政策が肝要であると肌で感じ、より広い視座を持つ環境省を志望するようになりました。

(3) 体験記

●勉強方法

【1次：基礎能力試験】

過去問を5年分解いてみて、明らかに正答率が低い、または時間が掛かるジャンルの問題について市販の参考書を一周しました。時事問題は半ば諦めていました。

【1次：専門多肢選択式試験】

高校生物・地学の参考書、大学時代の試験対策ノート、『森林・林業白書』を読みました。振り返ってみると大学時代のノートが一番役に立っていました。

【2次：専門記述式試験】

大学時代の試験対策ノートを読み返していました。年度による出題内容の当たり外れが激しい印象があり、その場で問題を選択できるよう幅広く分野をさらっておきました。例えば今年度の「森林科学に関する基礎」は私にとって苦手な法律や制度が中心で書きづら

かったのですが、幸い砂防系もカバーしていたので「国土保全に関する基礎」で解けました。

【2次：人物試験】

聞かれたことに素直に答えられるよう、自分の生活や経験をしっかりと振り返り文字起こししていました。個人的には、事前に百パーセント内容を練っても面白くないので、漠然と出来事一成果（成長）を結びつけておいて、後は柔軟に対応するといいい気がします。

【2次：政策課題討議試験／政策論文】

元々議論癖があり、話題に問わず、よく友人知人と議論していたのが功を奏しました。実際の試験では見知らぬ方と話すので、自分から話を切り出すタイミングを図るという意味で大学の先輩や先生方が多く列席する場に交じって話しておくと思えます。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

私は既に就職していた身なので、退職するときを考えて昼食時など折につけて同僚に現状をそれとなく伝えていました。また、既卒のメリットとして職に就いた後の業務上の困難を経験しており、それを強みとして話せるように整理していました。あとは体調管理です。

●官庁訪問

仕事の関係で環境省には第1クールの2日目に訪問しました。はじめ、学部4年生の人たちが多くなかだと浮いてしまうなど気がかりでしたが、同席に既卒組が他にも数名いたおかげで、話もしやすく落ち着いた気持ちになれました。既卒ですと、高校・大学のエピソードに加えて社会人経験まで入ってくるため、他の受験生と比べて話せる内容が1段階分多いため、全て盛り込むと極めて散漫になってしまうことを危惧していました。そのためエントリーシートに書いた自己PRのためのエピソードは1つに留め、面接の際に喋りすぎないように簡潔に聞かれたことに対して答えるよう努めました。

●アドバイス、メッセージ

面接は取って食われる訳ではないですが、それでも「落ち着け」だとか「緊張を楽しめ」というのは酷な話かとは思いますが。ただ、過去2年落ちている身からアドバイスできるとすると「どうなってもその先に道は続いていること」、そして「その過程できちんと多くを学ぶことで、最終的に目指すところへ到達できること」は本当です。頑張ってください。

Hさん

(1) プロフィール・試験区分等

【最終学歴】 大学卒

【学年】 社会人・男・29才

【専攻科目】 土木工学、土質力学

【試験区分】 森林・自然環境（大卒）

【一次専門選択科目】 砂防学基礎、砂防工学、流域管理

【二次専門選択科目】 国土保全に関する基礎

【参加した説明会・回数】 2回（初めての人向け説明会、少人数説明会）

【併願先】 なし

(2) 志望動機

周りを田んぼに囲まれた茨城の田舎で育ちました。小さい頃に、いつも遊んでいた近くの小川で在来のタナゴを業者（おそらくペット業者）が根こそぎ持って行く場面に遭遇し、非常にショックであったのと同時に、そのようなタナゴがいる小川は貴重であり、こういう自然を残していくような仕事をしたいと幼心に思ったのが最初のきっかけだったと思います。一度は違う道に進みましたが、そこで希少植物であるサクラソウの環境アセスメント制度に基づいた移植事業を経験し、改めて自然保護の重要性や制度の必要性を感じました。そこで制度の所管である環境省に興味を持ち、説明会に足を運ぶようになりました。自然環境問題に対して制度面からアプローチすることの責任の大きさや、やりがいを感じ、総合職を志望致しました。

(3) 体験記

●勉強方法

社会人からの挑戦で、平日の勉強時間の確保が難しく、勉強期間も半年ほどしか取れなかったため、時間管理を特に意識して取り組みました。最初に自分が割り当てられる勉強時間（私の場合は500～600時間）を、試験科目ごとに振り分けて大まかな計画を立て、勉強の進捗に合わせて1～2週間の頻度でその計画を見直すということを繰り返しました。また、TOEICは受験勉強が本格化する前に前もって勉強し25点の加点をもらいました。

【1次：基礎能力試験】

過去問や参考書を中心に勉強しました。読解（英文、現代文）は過去問10年分、数的処理は苦手だったので参考書2冊と過去問10年分、時事問題は通勤時間で参考書1冊を2周読みました。その他の自然科学、社会は出題範囲が広い割に配点が低いのでほとんど勉強しませんでした。

【1次：専門多肢選択式試験、2次：専門記述式試験】

一次は、過去問や教科書を中心に勉強し、間違った問題や関連する知識をノートや iPad にまとめました。過去問のまとめにはかなり時間がかかり、結局 4 年分しか出来ませんでした。丁寧なまとめた分、本番は分からない問題はほとんどありませんでした。二次も過去問を中心に勉強し、一次の時に作ったノートに周辺知識などを追記しながら 5 年分ほど解きました。

【2 次：政策論文】

過去問と予備校の模範回答を参考にしました。論文対策のために予備校に入りましたが、論文添削の提出時期が他の試験科目の追い込み時期と重なり、結局ほとんど利用出来ませんでした。予備校を利用するなら早めの準備が重要かと思います。

【2 次：人物試験】

予備校の面接対策を受講しようと思いましたが、基本的に平日の日中しかやっていなかったので利用出来ず、フィードバックをもらえる場がほとんどなかったのが辛いところでした。会場に向かう前は 1 時間ほどカラオケ店に入り、出来るだけ本番に近い状況を想定して実際に声を出して練習をしました。本番はあまり突飛な質問はなく、基本的には面接カードに沿ったことを聞かれました。

●官庁訪問

環境省以外に志望がなかったので、第 1 クール 2 日目に環境省を訪問したのみです。第 1 クールで面接は 3 回、第 2 クールでは 1 回行われました。第 2 クールまでに、政策について自分なりの意見をしっかり言えるように必死で勉強しました。

●内定までの過ごし方、心がけたこと

環境省や国家公務員について調べ切れていないことが多かったので、知人に環境省自然系 OB の方を紹介してもらい、組織の様子や働き方などを伺ったり、他省庁で働く友人にもアドバイスをもらいに行ったりしました。

●アドバイス、メッセージ

受験期間中はモチベーションの維持が大事だと思います。勉強の大変さと、このまま会社に残った方が良いのではという思いが何度も頭をよぎり、モチベーションが下がりがちでしたが、受験期間中にたまたま見たあるアスリートのインタビュー記事の中の「人間万事塞翁が馬」という言葉が心に刺さり、人生どこにいてもどうなるか分からないし、悩んでいるくらいなら思い切って挑戦することも大事だと思い、モチベーションを高く保つことが出来ました。今回内定を頂けたことは幸運でしたが、社会人からでも決して無理な挑戦ではないと思います。受験する皆さんには、体調に気を付けて是非後悔のないよう頑張っ

受験で使用した参考書・資料一覧

※赤字のものは2人以上が利用していた参考書・資料です。

○基礎能力試験

- ・過去問（人事院、大学から入手）
- ・速攻の時事（実務教育出版）
- ・畑中敦子の数的推理 ベストプラス
- ・国家総合職 教養試験 過去問 500
- ・新スーパー過去問ゼミ（数的推理、判断推理、文章理解・資料解釈）
- ・大学や高校の教科書
- ・畑中敦子×津田秀樹の「数的推理」勝者の解き方 敗者の落とし穴 NEO
- ・畑中敦子×津田秀樹の「判断推理」勝者の解き方 敗者の落とし穴 NEO
- ・一般知識 出るところチェック 生物・地学（公務員採用試験 国家一般職(大卒程度)、地方上級対応）

○専門試験

<森林・自然環境区分>

- ・過去問（人事院、大学から入手）
- ・森林・林業白書
- ・環境白書
- ・環境省、林野庁、国交省HP
- ・森林林業実務必携
- ・新・砂防工学（朝倉書店）
- ・森のバランス（東海大学出版部）
- ・国立公園の法と制度(古今書院)
- ・第五次環境基本計画
- ・生物多様性国家戦略2012-2020
- ・各種法条文 <http://www.e-gov.go.jp/index.html>
- ・雑誌 国立公園（（一財）自然公園財団）
- ・雑誌 公園緑地（（一財）日本公園緑会）

<化学・生物・薬学区分>

- ・過去問（人事院、大学から入手）
- ・オックスフォード生理学（丸善）
- ・放射線生物学（オーム社）
- ・食品の化学・物性と機能性（南江堂）
- ・食品の分類と利用法（南江堂）
- ・新しい分子進化学入門（講談社）
- ・生態学入門（東京化学同人）
- ・ニューステージ化学図表（浜島書店）
- ・イラストレイテッドハーパー・生化学（丸善出版）
- ・人体の細胞生物学：カラー図解（日本医事新報社）
- ・ウォルパート発生生物学（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
- ・ハートウェル遺伝学：遺伝子、ゲノム、そして生命システムへ（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

○面接

- ・現職人事が書いた「自己PR・志望動機・提出書類」の本（実務教育出版）
- ・現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）
- ・公務員試験についてのブログ <https://hiiragi-yuya.com/seisakutourontaiken/>

○政策論文・討論

- ・大学の公務員講座
- ・ニュース
- ・速攻の時事

○官庁訪問

- ・内定者の声
- ・環境白書
- ・環境省 HP
- ・説明会で配布されたパンフレット・資料
- ・現職人事が書いた「面接試験・官庁訪問」の本（実務教育出版）
- ・雑誌 国立公園（（一財）自然公園財団）
- ・国立公園論（南方新社）
- ・新聞（紙面、大学のネット上で見られる環境省自然系関連のアーカイブ）

○その他

- ・OB 訪問

環境省の印象

印象に残った職員の方々の言葉

- 「この仕事は10年・20年先のみならず
100年・200年先の未来までをも作っていく仕事」
- 「環境省は霞が関のベンチャー」
- 「現場ではレンジャーが頑張っ**て**はいけない」
(地元の人^のやる気に火をつけたり、支えたりするのが役割)
- 「“地域の中”に環境省があることを忘れてはいけない」
- 「良くも悪くもレンジャーはよそ者だけど、よそを知っているのも強みの一つ」
- 「対処方針一個一個ではなく、大きなビジョンをもってそれを人に伝えることが重要」
- 「現場、かつ国に繋げられる仕事は環境省ほどのものはなかなか無い」
- 「**地域**の人が元気で豊かじゃないと**自然保全**は成功できない」
- 「世界遺産登録が決まった時に地元の人が涙を流しているのを見て
役人冥利に尽きると思った」
- 「自然保護の大切さを内外(国の関係者、一般の方)に
いかに分かりやすく伝えるかが仕事」

内定者から見たレンジャー



- ・雰囲気^がやわらかく穏やか
- ・型にはまらない(既成概念にとらわれない)
- ・聞き上手、人の話をよく聞く
- ・現場が好きな人が多い
- ・上下関係の垣根が低い
- ・総合的に自然について考えている
- ・体力無限
- ・ストレス耐性高そう
- ・明るい
- ・誠実そう
- ・バランス感覚を大切にしている
- ・タフで元気、でもどこか**冷静**

内定者ってどんな人？

同期の第一印象



- ・自然が好き
- ・自分の意見をはっきり伝えられる
- ・仕事早そう
- ・距離感がちょうどいい
- ・バックグラウンドが多様
- ・自分の研究と向き合っている
- ・南の島に行きたい人多め
- ・趣味が変わっていて興味深い話をしてくれる
- ・アウトドア派多い
- ・明るい
- ・自由
- ・快活な人、物静かな人など多様
- ・笑顔が素敵
- ・しっかりした志を持ってそう
- ・コミュ力高い

失敗談



- ・二次試験で試験時間が2時間のところをなぜか3時間と勘違いし、途中で気づいて死ぬほど焦った
- ・官庁訪問の際に電車が遅延して遅刻しかけた
- ・面接で緊張しすぎて変顔をかました
- ・面接の手ごたえで一喜一憂したこと(無駄)
- ・面接で緊張し、喋ろうとしていたことを忘れる
- ・人事から連絡のある日に泊りがけで登山をしており、下山してから着信に気が付いた。
- ・試験の休憩時間に勉強するためのサンコウチョウ(参考書)を忘れた
- ・試験の休憩時間にベンチで昼寝をしていたら耳の中に蟻が入ってヒアリ(ひやり)とした
- ・ここにダジャレを記したこと